

2024年度活動概要

ライティング研究会

「書くための自己調整学習方略の獲得」 発表者：溝口夏歩 5月18日

ことばの学習ではよく「習うより、慣れよ」ということわざが引用される。しかし、実際にはどんなに練習しても、その練習の多寡で「よい学習者」になれるわけではない。むしろ、考えずに学習する者は決してよい学習者にはなれない。「よい書き手」であればなおさらである。ことばの「良い学習者」になるために、また「良い書き手」になるためには何を考え、何を実行すればよいか。この発表は「自己効力感」と「自己調整学習方略」という二本の柱を中心に「ことばの良い学習者」になるため、また「良い書き手」になるための具体的な提言を詳述している。

“Creative Drama and Writing”

Reporter: Miho Moody September 14

Many learners of English in Japan wish to use their English confidently in a real English-speaking environment, but many of them may stop their efforts when they get out of their classroom and find themselves unprepared for the ‘coughs and hesitations’ of the outside world. Aware of such a situation, the author of this paper suggests they try creative drama, especially improvisation, accompanied by the writing and revising of its script. According to the author, “a key element for a successful improvisation is a ‘conflict,’” for, in their efforts to solve that conflict, learners will pay attention to the meaning they are creating, not to the form of the language.” Believing in such an effect, the author has led many groups of university students, whose goal is to perform at the Oral Communication Festival (OCF). This is a good report of what she has done, together with those students.

「『文字』、『書く』ことと人」 発表者：佐藤雄大 11月16日

ライティングの本質に関する発表である。ライティングには「文字」を使い、「書く」という行為が含まれるが、「書く」行為が実は「人間にとって生得的なものではない」と明かす。さらに「読むという行為は自然なことではない」ため、子供の場合、「奇跡にもつながれば、悲劇につながることもある」と指摘する。「文字を書く/読む」の存在と限界を問うたフランスの哲学者デリダ（Jacques Derrida）によれば、自然の出来事や人間の経験をすべて数字や文字に置き換えることはできない。それゆえに、テオドール・アドルノが「アウシュヴィッツの後に詩を書くことは野蛮である」と言ったことも、日本人の詩人、谷川俊太郎が「感じたことの十パーセントも言葉では表現できない」と言ったことも理解できる。